

目次

50号記念企画①「てんじん表紙コレクション」	1・2
50号記念企画②「国立甲府病院時代の思い出」	3
50号記念企画③「甲府病院のあゆみ」	4
インフルエンザについて	5
重症心身障害病棟 クリスマス会 放課後等デイサービス（授業終了後）を開始します 健康管理センターについて	
地域医療連携室より	6
第66回国立病院総合医学会レポート	7・8
看護部だより「神戸に行ってきました」	8
お国自慢（秋田県・能代市） 秋の健康フェスタ 一般公開講座「糖尿病教室お食事会」	
患者数	9
突撃！？栄養士のお昼ごはん	10
外来医師担当表	11

発行：独立行政法人 甲府病院 広報委員会
 国立病院機構
 発行責任者：長沼博文
 住所：〒400-8533 山梨県甲府市天神町 11-35
 電話：055-253-6131
 ファックス：055-251-5597
 ホームページ：<http://www.kofu-hospital.jp/>
 Eメール：kofu@kofu.hosp.go.jp
 携帯サイト用QRコード



『旧・国立甲府病院全景 (S47〜)』

かつて当院のパンフレットに使用されていた、旧建物時代の当院の全景です。現在（右上丸囲み）とは建物の配置がかなり異なることがわかります。

画面左端、現在の立体駐車場のあたりにはかつて当院附属の看護学校がありました。その校門（写真赤丸）には、当院の前身である甲府衛成（えいじゅ）病院以来のレンガ門が使われていましたが、病院改修時に解体され、現在では記念碑（左下丸囲み）が残されています。

（文・事務部企画課経営企画係 山田 昌弘）

独立行政法人 国立病院機構 **甲府病院** の理念
 National Hospital Organization Kofu National Hospital

理念 私たちは、良質な医療の提供を通して、患者さんの健康を支え、地域社会に貢献します

基本方針 ●丁寧な説明に努めます ●自己研鑽に励みます ●職員同士協力し合います

私たち職員は、理念を実現するため最善を尽くします
 病院は、職員の働きやすい環境を積極的に提供します

「てんじん」50号記念 表紙コレクション



「てんじん」50号記念挨拶 ——— 病院長 長沼 博文

月日の経つのは早いもので「てんじん」発行が50号となりました。「てんじん」の名前の由来は、当院が天神町にあることと、近くに天神神社（梅があり梅屋敷とも言われている）があることから「てんじん」が候補にあがり選ばれました。年月を経て少しずつスタイルは変わっていますが、これまで同様病院の情報を伝えてゆきたいと思います。

●黎明期（1号～15号）※2006年1月～2007年3月



創刊号 06年1月 第2号 06年2月 第3号 06年3月 第4号 06年4月 第5号 06年5月 第6号 06年6月 第7号 06年7月



第8号 06年8月 第9号 06年9月 第10号 06年10月 第11号 06年11月 第12号 06年12月 第13号 07年1月 第14号 07年2月



第15号 07年3月

この時期の「てんじん」について

創刊号から15号までの「てんじん」は現在とは異なり、

- ・毎月発行
- ・4ページ構成

のスタイルをとっていました。この頃は表紙から記事が始まっており、少ないページ数ながら内容を充実させようという当時の編集スタッフの意気込みが見て取れます。

●発展期（16号～45号）※2007年4月～2012年2月



第16号 07年4月 第17号 07年6月 第18号 07年8月 第19号 07年10月 第20号 07年12月 第21号 08年2月 第22号 08年4月



第23号 08年6月 第24号 08年8月 第25号 08年10月 第26号 08年12月 第27号 09年2月 第28号 09年4月 第29号 09年6月



第30号 09年8月 第31号 09年10月 第32号 09年12月 第33号 10年2月 第34号 10年4月 第35号 10年6月 第36号 10年8月



第37号 10年10月 第38号 10年12月 第39号 11年2月 第40号 11年4月 第41号 11年6月 第42号 11年8月 第43号 11年10月



第44号 11年12月 第45号 12年2月

この時期の「てんじん」について

2007年4月発行の16号から、「てんじん」は大きくリニューアルを果たしました。この号より

- ・2ヶ月に1回、年6回発行
- ・基本的に8ページ構成

という、現在に至る「てんじん」の基本が完成しました。
また、ページ数の拡大により表紙に記事を入れる必要がなくなり、職員の手による、県内の風景や院内の行事を写した写真が新たに表紙を彩るようになりました。

●変革期（46号～現在）※2012年4月～



第46号 12年4月 第47号 12年6月 第48号 12年8月 第49号 12年10月 第50号 12年12月

※ここで掲載されている「てんじん50号」の表紙は試作段階のものです。

現在の「てんじん」について

2007年4月発行の16号から5年にわたり不変のスタイルを通してきた「てんじん」でしたが、2012年4月発行の46号よりロゴを一新し、新たな歴史を刻み始めました。
これまでの「てんじん」から、良い部分は残しつつ、この新しい表紙に負けない、常に新しい取り組みにチャレンジする紙面づくりを目指しています。

※今回掲載した「てんじん」創刊号～50号は、当院ホームページにて閲覧できます。

甲府病院ホームページ ⇒ <http://www.kofu.hospital.jp>

※トップページから下へスクロールし、
「過去のてんじんはこちらから」と書かれた部分をクリックしてください。



ここをクリック

特別寄稿

国立甲府病院時代の思い出



当院院長時代の船橋先生

名誉院長 船橋 渡 (元・国立甲府病院長)

昭和44年の春頃だったと思うが、国立甲府病院から、日大の第三外科に医師の派遣依頼があった。当時、国立甲府病院の外科医は林田外科から派遣されていたが、当時は、安保闘争が盛んな時代で、若い医師の間でも大学の教室への入局をボイコットする傾向にあり、派遣が難しくなったのであろう。そこで、石山教授の命を受け先輩の田中先生と私で甲府病院の視察に出かけた。

最初に目に入ったのは、平屋で瓦屋根の大変古い陸軍病院そのものであった。少々その古さに驚いたが、河口院長にお会いし、間もなく新病院が建設される予定だと聞き、更に消化器系の手術件数が予想以上に多かった事などを報告し、その結果派遣する事になった。



船橋先生が初めて当院を訪問した、昭和44年当時の管理棟。奥に完成間近の新病棟が見える。

最初3名の医師を派遣する事になり、私は47年2月から外科医長として赴任する事になった。その時から外科チームは私を含め5人に増員された。その頃の甲府病院の医師は、外科以外は多くの大学から派遣されていて、多種多様な人材であった。私が赴任してしばらくし、附属看護学校が創設され、病院全体も活気に溢れていた時代であった。



船橋先生が赴任して3年後の昭和50年(1975年)に創設された附属看護学校(平成13年(2001年)閉校)

甲府市の人口は20万人足らずであるが、その中に、国立、県立、市立、その他大規模病院が5施設もあったので、経営的にはなかなか難しい状況であった。甲府病院は医師の定員数が少なく、新しい医療機器の整備も遅れがちであった。特に画像診断(CT)は他の病院より10年近くも遅れた為に、次第に患者数の減少につながり厳しい時代を迎える事になった。

その後しばらくして、国立病院の統合案が厚生省より発表され、甲府病院もその対象となった。内容は、国立療養所西甲府病院と第三の地点で、特殊医療のみ

行う統合案であった。考えれば、甲府病院の方は消滅する事になる訳である。

その後西甲府病院の院長として赴任し、5年後、甲府病院の院長として戻ってからは、何とかして今の場所まで一般診療を残して統合したいと強く思うようになった。そこで甲府病院の診療内容として、新生児医療(NICU)等の充実を図り、甲府市での甲府病院の必要性等をPRしたり、その他地域住民や国会議員にも働きかけ、何とか存続できるよう努力をした。

果してどの程度成果が上がったかは明らかではないが、私が院長をやめる少し前に、国立病院が独立行政法人になる事が決まり、病院の収支を考える必要ができたため、一般診療を残す必要があり、その結果私が定年退職する前に、同じ場所で西甲府病院と統合し新病院が建設される事が決まり、安堵して院長職を終えることができた。



船橋先生が在職していた当時の、旧国立甲府病院正門

甲府に特に縁のない私としては、最初は3、4年の赴任と思っていたが、居心地がよかったせいか、ついに定年退職まで27年間お世話になる事になった。その間ご迷惑をかけた方々も少なからずいると思いますが、多くの方のご理解とご協力により、責務を全うし名誉院長の栄誉まで得ることができました。

共に働いたすべての職員の方々に心から感謝を申し上げ、私の思い出の終りとします。

船橋 渡先生 略歴

(国立病院赴任以降の経歴を記載)

昭和47年2月	国立療養所山梨清楽荘	外科医長として赴任
昭和47年3月	国立甲府病院	第一外科医長に転任
昭和55年9月	国立甲府病院	副院長に昇任
昭和62年4月	国立療養所西甲府病院	院長に就任
平成4年4月	国立甲府病院	院長に転任
平成11年3月		定年退職
平成11年4月		名誉院長発令
平成22年4月		瑞宝中綬章受章
平成24年10月		園遊会に招待

甲府病院のあゆみ

当院は平成16年10月に、旧・国立病院機構甲府病院と旧・国立病院機構西甲府病院が統合して成立し、以来8年の歴史を刻んでいます。

ここでは、当院の前身となった旧・甲府病院と旧・西甲府病院のそれぞれの歴史を振り返ります。過去の歴史に学びつつ、新たな歴史を皆様と共に刻めるよう、職員一同努力していきたく思います。

- 明治時代
- 明治36年
- 日露戦争勃発
- 大正時代
- 大正12年
- 関東大震災発生
- 昭和時代
- 昭和16年
- 太平洋戦争勃発
- 昭和20年
- 終戦
- 昭和26年
- サンフランシスコ
- 平和条約締結
- 昭和28年
- テレビ放送開始
- 昭和33年
- 東京タワー開業
- 昭和39年
- 東京五輪開催
- 昭和45年
- 大阪万博開催
- 平成時代
- 平成7年
- 阪神・淡路大震災発生
- 地下鉄サリン事件発生
- 平成17年
- 愛知万博開催
- 平成19年
- 郵政民営化
- 平成21年
- 民主党へ政権交代
- 平成23年
- 東日本大震災発生
- 平成24年
- 東京スカイツリー開業

● **国立病院機構甲府病院 (旧)**
(平成16年9月30日まで)

明治42年(1909年)4月
甲府衛戍(えいじゅ)※1病院として設立



明治44年に建立され、現在も当院に残る「借楽園」※2の石碑

昭和11年(1936年)11月
甲府陸軍病院となる

昭和20年(1945年)12月
厚生省(現・厚生労働省)に移管



甲府陸軍病院時代の配置図(昭和20年当時)

国立甲府病院として発足

昭和28年(1953年)4月
結核療養所へ転換

国立療養所甲府病院となる



旧国立甲府病院全景(昭和37年撮影)
衛戍病院設立当初の病棟がこの時代まで使用されていた

昭和37年(1962年)4月
国立病院に再転換


国立甲府病院となる

平成13年(2001年)
現在の建物の一部(外来棟)が建設される

平成16年(2004年)4月
独立行政法人へ移行

国立病院機構甲府病院となる

● **国立病院機構西甲府病院**
(平成16年9月30日まで)




山梨清楽荘全景(昭和27年~28年頃)
「清楽荘」の名は発足当時の山梨県知事・多湖実夫氏が近隣の梅園の中で見つけた「清楽園」の石碑に因んで命名した、と言われている。

昭和18年(1943年)3月
山梨県立結核療養所として創設


同日、日本医療団へ移管

昭和22年(1947年)4月
日本医療団の解散により厚生省(現・厚生労働省)所管となり、国立療養所山梨清楽荘となる



「山梨清楽荘」時代の看板

昭和54年(1979年)4月
国立療養所西甲府病院と名称変更なる



国立療養所西甲府病院全景(平成11年撮影)

平成16年(2004年)4月
独立行政法人へ移行


国立病院機構西甲府病院となる

● **国立病院機構甲府病院 (新)**
(平成16年10月1日より)

平成16年(2004年)10月1日
国立病院機構甲府病院(旧)と国立病院機構西甲府病院が、甲府病院の地にて統合する

現在の建物全体は同年9月に完成し、この統合により全面的な運用を開始

国立病院機構甲府病院となり、現在に至る



現在の甲府病院

※1 衛戍(えいじゅ)病院……旧日本陸軍の衛戍地(駐屯地)に設置された病院。後に「陸軍病院」と改称。
 ※2 借楽園……旧甲府衛戍病院の敷地内に存在した、傷病患者慰問のための庭園。

インフルエンザについて

●インフルエンザウイルス



○ 症 状

38℃～40℃の高熱、咳、頭痛、さむけ、倦怠感、筋肉痛などの他に、吐き気、嘔吐、下痢などの症状が出る人もいます。

○ 感 染 経 路

飛沫感染：感染者の咳、くしゃみと共に出るウイルスを吸い込むことによって感染します。

接触感染：感染した人の咳やくしゃみによって周囲にウイルスが付着、その付着した物に触った手で、口や目の粘膜を触ることで感染します。

●インフルエンザワクチン接種

予防の基本は、**流行前にワクチン接種**を受けることです。予防することだけでなくインフルエンザにかかった場合は、重症化防止に有効とされています。



●日常生活での予防（留意点）



○ 手洗いうがいをしっかり行う

外出後は、必ず手洗いうがいを行きましょう。手洗いは、流水と石鹸を用いて15秒以上行いましょう。



○ 栄養と休養を十分取る

体力をつけ、抵抗力を高めることで感染しにくくなります。体力や抵抗力を高めるため、常日頃からバランスよく栄養をとることが大切です。



○ 人ごみを避ける

ウイルスを寄せ付けないようにしましょう。流行してきたら、特に高齢者や慢性疾患を持っている人、疲労気味、睡眠不足の人は、人ごみや繁華街への外出を避けましょう。



○ 室内の湿度を保つ

乾燥していると、ウイルスは長時間空気中を漂っています。ウイルスの活動を抑えるためにも部屋の湿度を保ちましょう。



●咳エチケットに心がける

咳エチケットとは、咳やくしゃみが出そうな時に、他人に感染させないためのマナーです。

うつさない、うつらないために、
手洗いうがい・咳エチケットを
習慣づけよう！！

○ 咳、くしゃみなどの症状があるときは、マスクを着用しましょう。

咳やくしゃみをするときは、ティッシュなどで口と鼻を覆い、他の人から顔をそむけ、
1～2m以上 離れましょう。



使ったティッシュはゴミ箱に捨て、手洗いを行いましょう。



●基礎疾患を有する方、妊娠中の方

- 喘息など慢性呼吸器疾患、慢性心疾患、腎機能障害、糖尿病など基礎疾患のある人や、妊娠中の方は、感染した場合重症化する危険性が高くなります。
- 日頃から主治医に対処療法等を相談する等の感染予防と共に、症状がある方は早期受診、早期治療を心がけましょう。

●インフルエンザかな？と思ったら

- 早期に受診しましょう。
- 受診する際は、他の人に感染させないように、必ずマスク着用しましょう。





「重症心身障害病棟 クリスマス会」



主任児童指導員 和田 聡

12月5日（水）に重症心身障害病棟クリスマス会が開催されました。各病棟、職員による出し物や、医師で結成された管弦楽アンサンブル、山梨県教会一致懇談会聖歌隊による透き通った歌声がクリスマス会を盛り上げてくれました。

最後にサンタが登場して利用者の皆さんにちょっと早いクリスマスプレゼントを届けてくれました。

今回も多くのボランティアの皆様のご協力により楽しいクリスマス会を開催することができました。そして皆さんの「笑顔」という素敵なクリスマスプレゼントをいただくことができました。



クリスマス会の1コマ。医師で結成された管弦楽アンサンブルによる演奏。

放課後等デイサービス《授業終了後》を開始します

通所支援事業「ひまわり」では、平成24年12月から放課後等デイサービスの「学校授業終了後」の受け入れを開始しました。

地域やご家族のニーズにお応えするため、医療機関としての役割と共に、重い障害をお持ちのお子さん達の放課後の生活拠点としてご利用ください。詳しくは下記までお問い合わせください。

- 開所時間
平日の13:00～17:00
- 対象
重症心身障害児（学齢児）
- 送迎
甲府支援学校から当院までの片道のみ実施します
（費用はかかりません）

■お問い合わせ先

独立行政法人国立病院機構 甲府病院
通所支援事業「ひまわり」
Tel：055-240-6217（直通）

健康管理センターについて

“生活習慣病”とは、かつて成人病と呼ばれた名称で、脳卒中・心臓病・糖尿病・がんなどの総称です。

名称の変遷とともに、現代の医学は疾病の治療から、予防医学に変わりつつあります。

我々は病気になってから治療するのではなく、病気の予防・健康増進、早期発見・治療が最善と考えます。

当院では、高度の医療知識を持ったスタッフが最高の医療で皆様に対応いたします。

“健康です！” と言えるために、人間ドックをお勧めいたします。

- 人間ドック：毎週火・木曜日実施しています
- 脳ドック：毎週月・火曜日実施しています

※事前の予約が必要となります

お問合せ 055-251-6131(代表) 人間ドック・脳ドック担当

地域医療連携室より

治療実績スポーツ障害部門全国5位

甲府病院は、全国病院別治療実績（DPC対象病院）において、2011年退院患者の統計におけるスポーツ障害部門（肘・膝の外傷）で、全国5位（全国1634病院中）となり、昨年の6位からさらに1ランクアップしました。

詳細は Caloo のホームページ (<http://caloo.jp/dpc/disease/871>) にて確認できます。

順位	全国	病院名
1	神奈川県	聖光堂病院
2	千葉県	医療法人社団 聖愛会船橋聖母病院
3	熊本県	社会医療法人社団熊本五同会 熊本聖母病院
4	沖縄県	社会医療法人仁愛会連済総合病院
5	山梨県	独立行政法人国立病院機構 甲府病院

◎地域医療連携室・お問合せ先
連携室直通 電話 055-240-6223
FAX 055-240-6225
業務時間 平日 午前8:30～午後5:00
担当：中澤 相山 杉本

スポーツ障害部門・全国上位5施設（赤枠が当院）

第 66 回 国立病院総合医学会レポート

去る 11 月 16 日・17 日の 2 日間、神戸市において「第 66 回国立病院総合医学会」が行われ、当院からも多数の職員が演題発表を行いました。今回は学会に参加し、発表した職員から、その様子を報告していただきました。

◎外科系診療部長 萩野 哲男 『当院のスポーツ・膝疾患治療センターの現況と展望』

神戸市で開催された第 66 回国立病院総合医学会において、『病院組織』という一般口演セッションでスポーツ・膝疾患治療センターのこれまでの活動と今後の展望についての発表を行いました。

はじめにセンターの開設後 5 年間の活動内容として、大学のチームドクターを務めるなど地域スポーツ医療への貢献、スタッフの研修の充実、ハード面での高機能鏡視下手術システムの導入などセンターの取り組みについて紹介しました。これにより延べ入院・外来患者さんの数が増加傾向にあること、患者さんは近隣の市町村のみでなく山梨県全体から訪れ、県外からもみられるようになったこと、さらに整形外科手術件数が平成 23 年度には 655 件（うち関節鏡手術が 511 件）と大幅に増加したことなどを報告し、整形外科医師不足の解消により、今後はさらなるセンターの発展が可能であると結びました。

今回、口演時間が 4 分と非常に短時間であり、発表したい内容の一部しか報告できませんでしたが、国立病院機構甲府病院のスポーツ・膝疾患治療センターのアピールができたものと確信しております。協力していただいた方々に感謝いたします。



◎撮影透視主任 米倉 実 『重症心身障害児（者）の腰椎骨密度測定についての検討』

神戸で開催された国立病院総合医学会に参加してきました。この学会は、病院内の様々な職種の人達が一堂に会する他ではあまりみられない学会です。他部門の発表や講演を聴くこともできますし、シンポジウムやランチョンセミナー等多角的な質問や意見がでて勉強になりました。

そして私も演題発表してきました。内容は、腰椎の骨密度測定についてです。

腰椎の骨密度測定装置は腰椎が真っ直ぐな人の測定には、大変優れた装置ですが、腰椎に変形がある場合は装置の原理上、正しい測定値が得られないことがあります。

当院では、重症心身障害児（者）病棟の患者さんの骨折予防の為、定期検診及び骨粗鬆症治療薬の判定目的で腰椎骨密度測定を行なっていますが、重症心身障害児（者）病棟の患者さんには脊柱の変形が多く見受けられるので、変形のある腰椎でも正しい測定値に近づけるには？毎回同じように測定するにはどうしたらよいか？ について研究し、懸案事項が残るものの、有意義な成果を得て発表に至りました。

最後になりますが、私にとって神戸も演題発表も久しぶりだったので、印象に残る学会となりました。



◎療育指導室長 山田 宗伸 『第 66 回国立病院総合医学会に参加して』

今学会では、療育指導室から重症心身障害児（者）に対する支援に焦点を当てた内容を計 4 題発表しました。まず、和田主任児童指導員は、医療的ケアを必要とする方の地域移行に係る相談支援から、社会資源の現状、医療福祉ネットワークの必要性について考察しました。高橋主任保育士は、利用者の高齢化・重症化等に応じたサービス提供を把握することを目的に実施したアンケート調査の結果を、また、安達保育士は、療育活動の充実を目的に取り組んだ療養介助員と保育士との連携について発表しました。そして、私は、社会生活に係る支援に焦点を当て、汎用性を高められるシステムの必要性について発表させていただきました。

研究の成果を 1 枚のポスターにまとめることの難しさを改めて感じつつも、多くの方々にご指導・ご協力いただき無事終えることができました。関係の皆様方に心から御礼申し上げます。



第66回 国立病院総合医学会 演題発表一覧

職名	氏名	演題
外科系診療部長	萩野 哲男	当院のスポーツ・膝疾患治療センターの現況と展望
整形外科医長	落合 聡司	患者立脚型評価法を用いた前十字靭帯損傷膝の治療評価～スポーツ競技レベルによる比較～
診療放射線技師長	藤本 幸弘	FPD装置導入による胸部X線撮影時の患者入射線量の軽減に向けた検討
撮影透視主任	米倉 実	重症心身障害児(者)の腰椎骨密度測定についての検討
3病棟看護師	中込 身江	頻回に喀痰吸引を必要とする気管切開をしている重症心身障害児(者)の自発呼吸の安楽性～伏臥位を導入して～
4病棟看護師	須田亜由美	効果的な内視鏡申し送り書の作成と活用に向けた取り組み
6病棟看護師	小村奈緒美	重症心身障害児(者)におけるアロマオイルによる腹部マッサージの自然排便促進の効果について
7病棟看護師長	小宮山明美	重症心身障害児(者)の骨折予防に向けての取り組み ～骨折予防プロジェクトチームを立ち上げて～
8病棟看護師長	永嶋まゆみ	重症心身障害児病棟の看護の質向上のためのケア班活動報告
8病棟看護師	田邊 綾乃	特定部位の発赤(褥瘡)を繰り返す患者に対する、発赤発生率低減に向けた取り組み ～体位保持時の細やかな配慮についての意識調査をもとに～
経営企画係長	大島 剛俊	病院林立地帯における地域連携の事例比較と考察
療育指導室長	山田 宗伸	重度の障害を持つ利用者の社会生活に係る支援のあり方について
主任児童指導員	和田 聡	医療的ケアの高い重症心身障害者の地域移行への取り組み
主任保育士	高橋 明美	家族・スタッフへ実施したアンケート結果を通して
保育士	安達 梨乃	療養介助員の導入と保育士の役割

(順不同・学会会場にて発表した職員のみ掲載)



看護部だより

神戸に行ってきました



手術室看護師長 林 由美子

今年の学会開催地は、神戸です。全国144施設から、8220名の参加者が集まる大きな学会です。

看護部からは、6題の看護研究を携えての参加です。患者さんにより質の高い看護を提供するために、日頃から看護実践に役立つ新しい知識・技術を創っていく営みをまとめ、発表するのです。

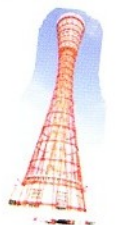
16日の午前の発表に間に合うように、15日に甲府を出発しました。15日は晴れていましたが、あとの2日間はあいにくの雨、神戸の夜景を見られたのは、15日に現地に到着した人だけです。六甲山から眺める神戸の夜景は「千万ドルの夜景」と呼ばれているそうです。甲府の夜景より眩しかったという、見た人の感想です。

さて学会初日、会場に行く途中、神戸ポートタワーが見えました。

神戸のランドマークタワーに勢いをもらい、りっぱに研究発表を終えほっと一息です。みんなの発表応援を終え、気づけばベストポスター賞を2つもいただきました。



六甲山からの「千万ドルの夜景」



神戸のランドマーク「神戸ポートタワー」

帰り道に、生田神社に立ち寄りしました。生田神社は1800年以上の歴史を有する古い神社です。生田神社の神を守る家のことを神戸「カンベ」と呼んでおり、これが由来となって神戸という地名が生まれたそうです。

そして！やっぱり神戸といえば神戸牛ですよね。ということで、お店探し開始。金の牛の置物がある店を発見！これは、本物の神戸牛の証でしょう。A5ランクといわれる神戸牛をいただきました。口の中でとろけました。私は知りませんでした、神戸牛という生きた牛はいないそうです。ほとんど

のブランド和牛のルーツといわれる「但馬牛」のうち、一定の品質基準を満たす「選りすぐり」の「牛肉」のことを「神戸牛」と呼ぶのだそうです。へ～

学会2日目午前の部の研究発表も無事に終え神戸を後にしました。



1800年の歴史「生田神社」



神戸肉流通促進評議会が認定した店舗に置かれる認定証、金の「KOBE BEEF」



世界に愛される味「神戸ビーフ」

※当院看護部から2名が「ベストポスター賞」を受賞！！

←ベストポスター賞受賞者2名

(左) 8病棟 田邊看護師

「特定部位の発赤(褥瘡)を繰り返す患者に対する、発赤発生率低減に向けた取り組み」

(右) 8病棟 永嶋看護師長
「重症心身障害児病棟の看護の質向上のためのケア班活動報告」





お国自慢

《秋田県・能代市》

副診療放射線技師長 田口 浩文

現在では能代市ですが、二ツ井町という所で生まれ育ちました。1993年に世界遺産に登録された白神山地の玄関口です。とは言うものの、ここを目当てに訪れた人に出会ったことはありません。私は世界遺産よりも近所の「きみまち阪公園」をお奨めします。



きみまち阪公園・春の桜(↑)
秋の紅葉(↓)



ゴールデンウィークには岩山のあちこちに桜が咲き、秋には紅葉で山が色づき、遠足や、きりたんぼ鍋で宴会をするには最高の場所です。ちなみに、「きみまち」とは、明治天皇が皇后の手紙を待ち受けていたことから付いたようです。(ローカルネタですみません)

では範囲を広げて秋田といえ

ば何が思い浮かぶでしょうか。きりたんぼ鍋、はたはた、稲庭うどん、なまはげ、竿灯(かんとう)などでしょうか。残念ながら私は意外と縁遠く、なまはげ、竿灯は本物を見たことはありません。とても残念ですがうまく伝えられません。

代わりに日本海を紹介させていただきます。

世間のイメージでは太平洋はJ-POPで日本海は演歌だと思いますが、夏の海に沈む夕日を是非一度見てください。五能線のしらかみ号などに乗って味わっていただければ秋田の良さや日本海のすばらしさを少しは理解してもらえるとと思います。



五能線の車中より日本海に沈む夕日を望む

秋の健康フェスタ

甲府病院では春と秋に「健康フェスタ」を開催しています。春はナイチンゲールの生誕に因んだ「看護の日」にあわせ、「春の健康フェスタ」を院内で開催しました。

「秋の健康フェスタ」は10月14日に行われた「北新地区健康祭り」において、黒澤内科医師と市川慢性疾患専門看護師が参加し、講演を行ってきました。その第2弾として11月23日、朝日通り商店街のえびす講まつりで「健康相談」のブースを出しました。目的を「地域とふれあい、健康に関する情報を発信する」とし、管理栄養士による「栄養相談」作業療法士が「ロコモ体操」看護師で「アロマのハンドマッサージ」を行いました。訪れてくださった方の中には甲府病院をご存知で声を掛けて下さり、温かい気持ちをいただきました。地域に必要とされる病院になりたいと、改めて感じました。これからもどうぞよろしく願いいたします。



「えびす講まつり」に出展した
当院の「健康相談ブース」

一般公開講座

糖尿病教室お食事会

当院ではお食事会を開催しております。
今回は **岡島ロイヤル会館の志智 料理長** が腕によりをかけてご用意を致します。糖尿病について医師、看護師、薬剤師、理学療法士や管理栄養士の専門スタッフの講演も予定しております。
皆さんで楽しく「食べ」「学び」しましょう!

【開催日時】
平成25年 1月25日(金) 11:00~14:00
(受付10:30~
喫食開始12:00~予定)

【場 所】 独立行政法人国立病院機構
甲府病院 大会議室(4階)

【参加費用】 1,500円(定員70名様) ※先着で締切ります。

【献立内容】 ※当院の管理栄養士が作成した献立です。
おせち料理 お吸物 季節の果物 **550kcal**

◆お申し込み・お問合わせ◆
地域医療連携室
TEL: 055-240-6223 (直通)
FAX: 055-240-6225 (直通)
受付時間 8:30~17:00 (月曜日~金曜日)

甲府病院

平成24年度一日平均患者数

入院

※11月分及び年間累計は11月末日現在(小数点以下第2位は四捨五入)

種別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
一般		81.1	82.6	90.4	95.6	93.9	87.3	104.7	96.2					91.5
重心		119.2	119.9	120.1	120.0	119.9	122.5	123.3	122.4					120.9
計		200.3	202.5	210.5	215.6	213.8	209.8	228.0	218.6					212.4

外来

※11月分及び年間累計は11月末日現在(小数点以下第2位は四捨五入)

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	249.6	266.1	254.3	274.7	250.0	269.7	265.8	269.3					262.3



突撃! ? 栄養士のお昼ごはん

栄養管理室
管理栄養士 繁田 佐織

～食材使い回しテクニック?編～

大根きゅうりの即席漬け ← ← ← ← ← きゅうり・わかめの酢の物

焼きなす ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ 麻婆茄子 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ なすの煮つけ



高菜しらす炒飯 ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ しらすオニギリ

おから炒り煮 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ おから入りロールキャベツ



切り干し入り卵焼き ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ 切り干し大根煮

キャベツ炒め (エリンギベーコン) ↑ ↑ ↑ ↑ ↑

→ → → 謎ちゃんぶるー (キャベツ)

外来医師担当表

平成24年12月1日現在

…女性医師等

			月	火	水	木	金	
外 科	診察室 1		鈴木	浅川	角田	鈴木	牧	
	診察室 2		浅川	角田	高橋	高橋	鈴木	
	化学療法 (五階)	診察室 1		角田	鈴木			
		診察室 2			浅川			
内 科	診察室 3		渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	
	診察室 4		黒澤	黒澤	黒澤		黒澤	
	診察室 5		川口	古屋	古屋	中尾	太田	
呼吸器内科	診察室 4					樋田		
一階診察室	神経内科	診察室 5 (午後)					一瀬	
	循環器内科	診察室 6		薬袋	中村		薬袋	
	皮膚科	診察室 9 (共用)			松澤(美)			
	脳神経外科	診察室 8		長沼	長沼	長沼	大学医師	
	消化器内科	診察室 9		稲岡				
		診察室 10 (共用)						
	整形外科 (スポーツ・膝疾患治療センター)	1	萩野			装具外来	萩野	萩野
		2		高山	高山	渡邊		
		3	落合	落合		落合		
		4	千賀		千賀		千賀	
5		装具外来						
検 査 室	内視鏡	午前	角田	高橋	大学医師 田中	北橋	浅川	
		午後			大学医師 渡辺			
	エコー	午前			腹部 検査科 心臓 薬袋		腹部 検査科	
		午後				心臓 薬袋		
小 児 科	1	内田	内田	藤岡	久富	久富		
	専門外来 1 (午後)	神経 藤岡	神経 中村	神経 神谷	第1・3週 探査 小野	代謝 内田		
	専門外来 2 (午後)	フォローアップ 久富	フォローアップ 久富					
産婦人科	1	滝澤	雨宮	高木	雨宮	滝澤		
	2 (予約のみ)	雨宮	高木	第1・3週 雨宮 第2・4・5週 滝澤	滝澤	高木		
	3	妊娠 助産外来			妊娠 助産外来			
眼 科	予約のみ 10時迄 地 場		地 場	地 場		地 場		
泌 尿 器 科	奇数週・予約のみ 大学医師							
耳 鼻 咽 喉 科						矢崎		

●受付時間 初診/午前8時30分～午前11時00分 再診/午前8時20分～午前11時00分(再診で予約を取られている方は予約時間まで)

※以下のものについては事前の予約が必要となります。

- 予防接種(小児科) 毎週木曜日
- 毎月第4金曜日 糖尿病教室 黒澤医師

●小児科 専門外来

- 乳児健診 毎週火・金曜日
- 人間ドック 毎週火・木曜日 脳ドック 毎週月・火曜日午後

特殊外来のご案内

・「乳腺外来」については、毎週水・木曜日の午前中に高橋医師(女性)が診察します。検査についても女性技師が行っています。乳房にしこりなどの異常を感じたら、すぐに受診されることをお勧めします。

・「物忘れ外来」については、脳神経外科で行っています。ご家族が「忘れることが多い」と気づいたら、受診されることをお勧めします。

◆平成24・25年度 看護職員採用試験案内◆

助産師・看護師・看護助手採用試験は随時行っています。

申し込み方法 *下記の電話番号に(土日休日以外)に直接ご連絡下さい。

連絡先 国立病院機構甲府病院 庶務係長
TEL:055-253-6131 FAX:055-251-5579

編集後記

◆いつも、「てんじん」をご愛読いただきありがとうございます。今回、連携ニュース「てんじん」は、50号を迎えることができました。

表紙を1号から50号まで集めた、「表紙コレクション」の企画では、歩んできた歴史、時の流れの早さなど、様々な思いを蘇らせ、語り合う時間を持つことができました。

今後も、これまでの歴史を引き継ぎ、さらにみなさまに愛される「てんじん」になるよう、努力していきたいと思っております。応援よろしくお願ひ致します。
(広報委員一同)